



フェイク・バスターズ

放送日：2019年12月19日 放送時間：49分

対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 社会 学級活動 情報

この番組の良さ

● デジタル時代を生き抜くために

インターネットやスマートフォンの普及、そしてソーシャル・ネットワーキング・サービスが広がった現代では、誰もが手軽に情報を受信し、発信することができます。インターネット上には、飛び交うデマや根拠の不確かなフェイク情報も少なくありません。フェイクの被害者・加害者にならないためにはどうすればいいのでしょうか。番組では、信頼できる情報を見極め、デジタル時代を生き抜くための具体的な方法やICTリテラシーを、各分野の専門家とともに考えることができます。

● ネット被害の恐ろしさを知る

番組では、「朝起きたら、ネット上で自分が“犯人”になっていた」「SNSで見た治療法を試したら病状が悪化した」など、実際にデマや不確かな情報に振り回された人々を紹介しています。さらに、いま世界中で大問題となっている“究極の合成動画”＝「ディープフェイク」の実態や被害の様子も明らかにしています。番組を通して、インターネットやSNSなどに潜む罠や犯罪、その危険性について知ることができます。

番組活用のポイント

● 情報の受信、発信に関するICTリテラシーを具体的に学ぶ

スマートフォンやソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）が、児童生徒にも急速に普及し、GIGAスクール構想の実現に伴い1人1台の学習者用端末が整備される中において、学校における情報モラル教育は極めて重要であり、喫緊の課題と言えます。

学習指導要領解説編では、情報モラルを『情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度』と記載しており、具体的には、他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること等だと述べています。そのような情報モラルの学習に、「フェイクバスターズ」を教材として活用することをお勧めします。

本番組では、実際に被害にあった方々の体験談や証言から、情報収集・情報発信にあたり注意すべき事項や、SNS上でデマを拡散された場合の対策や、デマ拡散の加害者とならないための方法など、網羅的に取り上げられており、ICTリテラシーを分かりやすく学ぶことができます。

● 事例をもとに具体的に考える

現在の児童生徒のインターネット等の利用については、「トラブルを起こしてしまうかもしれない」という自覚がないまま利用している可能性があると言われてしています。情報モラルの指導においては、情報には誤ったものや危険なものがある事実について考える学習活動も大切です。本番組の視聴を通して、「なぜインターネットの情報を鵜呑みにしてしまったのか」、「なぜ被害に巻き込まれてしまったのか」を、事例をもとに具体的に考えることができます。また、SNS上で同じ考えの人同士で交流し、共感し合うことにより、誤った情報でも信じやすくなってしまいう「エコーチェンバー」現象の事例紹介や対策について理解することを通して、自分自身のSNS活用場面を振り返り、今後の行動変容に役立てることができます。



執筆者
西原町教育委員会
教育総務課
指導主事 甲斐 崇